

はじめに

2006年4月より実施して参りました「地域包括支援センターにおける総合相談・権利擁護業務の評価に関する研究事業」がようやく終了の運びとなりました。この研究事業の最も大きなねらいは、発足したばかりの地域包括支援センターにおいて総合相談・権利擁護業務を担う社会福祉士への支援にありました。具体的には全国の地域包括支援センターの業務環境実態調査を踏まえて「地域包括支援センター社会福祉士「評価シート」」を開発し、この「評価シート」の全国的な普及をとおして地域包括支援センター社会福祉士の力量の向上を目指すものであります。

地域包括支援センターの総合相談・権利擁護業務が、社会福祉士が中心となって担う業務と位置づけられたことにより、我々に大きな課題が投げかけられたと感じています。地域包括支援センターに社会福祉士が必置とされたことはとても喜ばしいと考えておりますが、その一方で周囲からの期待に応えることが重要となり、社会福祉士の力量が問い質されることにつながります。これまで社会福祉の分野では、その業務を評価する、しかも質的に評価をするという取り組みは十分に行われてこなかった現状があります。しかし、地域包括支援センターの発足に伴い、社会福祉士の力量が問われることを考えますと、必然的に力量をはかる客観的なものさしが必要となります。専門職として自らの業務を第三者に説明し得ること、自らがその業務を見つめ、見直し、高めていくことが必要不可欠となります。

こうした意図のもと、この2年にわたる研究事業では、力量向上を目指す社会福祉士への支援のためのツール開発を軸に、多くの取り組みや研究を行ってきました。

2007年度においては、全国500か所の地域包括支援センターを抽出、2008年度には全国3817か所の地域包括支援センターへの業務環境実態調査を実施しました。全国規模の2年間にわたっての調査からは、様々な地域包括支援センターの実態が浮かび上がってきております。具体的な内容については、報告書第2章に記載しておりますが、地域包括支援センターの現状が見えてくるのではないかと思います。

「評価シート」開発の趣旨については、2006年度の報告書でも述べさせて頂きましたが、地域包括支援センターに従事する社会福祉士が担う業務内容の「検証」と業務「評価」を通して「実践の質の向上を目指す」ということにあります。「評価」という言葉そのもののイメージから当初かなり抵抗感が強かったのですが、「評価」あるいは「評価する」とは、必ずしも「評価」＝「点数化」＝「業務の標準化」といった意味ではなく、むしろ自らの業務を検証あるいは第三者に検証してもらうことで、「気づき」を得るための手段であり、そこから実践の向上につなげていくという積極的側面が重要であるという考えは、「地域包括支援センター社会福祉士「評価シート」活用・支援者養成」を展開する中で、各都道府県支部の地域包括支援センター担当者や地域包括支援センター関係者から、かなり理解が得られたのではないかと感じております。2007年度においても、昨年度の「評価シート」活用研修に参加された都道府県支部の地域包括支援センター担当者からのご意見を踏まえた修正が加えられ、より精査された「評価シート（2007年度版）」が作成されております。

2007年度においては、あわせて「評価シート」の自己チェック支援ツールの開発にも着手しました。これまでの「対面方式（基本パターン）」による「評価シート」の活用方法は、第三者いわゆる評価者（支援者）の手によって、「気づき」を促すものでありましたが、今回開発した「自己評価ワークシート」は自らが自分自身の実践を確認し、「気づき」を得ていくというものです。この「自己評価ワークシート」は、地域包括支援センターの社会福祉士が自己評価を行う際のツールであるとともに、「対面方式（基本パターン）」における、評価者（支援者）の参考資料として有効であるとも考えています。この「自己評価ワークシート」については、[別冊1](#)「地域包括支援センターのソーシャルワーク実践 自己評価ワークブック」としてとりまとめておりますので、ぜひご活用いただければと思います。

また2007年度の研究事業では、地域包括支援センターにおいて活躍する社会福祉士の姿を浮き彫りにし、そこで行われる「援助者（社会福祉士）の働きかけ」が、「評価シート」における「地域レベル」「組織レベル」「個別レベル」のどの評価項目に意識しながら行われたのか、を明示する「社会福祉士実践事例集」の作成もあわせて試みております。この「社会福祉士実践事例集」は、現在活躍する地域包括支援センターの社会福祉士の協力のもとに進めてまいりました。まさに現場と研究が一体となって進められたものであり、この点も専門職能団体ならではの取り組みであったと自負しております。この成果は、[別冊2](#)「地域包括支援センターのソーシャルワーク実践 社会福祉士実践事例集」としてとりまとめておりますので、ご活用ください。地域包括支援センターの社会福祉士の皆様による活用のみならず、様々な場面で必ずお役に立てるものと考えております。

1年目は、どのように研究を進めていくかに苦慮し、2年目は多くの研究課題をどのような成果として残していくかということに苦勞しましたが、委員各々の大きな力と熱い思いに、また多くの関係する皆様方の支えによって、充実した内容になったと感じております。この研究事業は、2007年度で終了いたしますが、日本社会福祉士会の地域包括支援センター支援委員会が引き続き、「評価シート」および研修プログラムのさらなる検討を行っていく予定です。これからもこの研究成果が地域包括支援センター社会福祉士への支援として役立てられることを期待しております。

事業を実施するにあたり、本当に多くの方々のご支援・ご指導を得られたことに大いに感謝しますとともに、毎回オブザーバーとして委員会にご出席頂きました厚生労働省老健局計画課の方々に厚く御礼申し上げます。

最後にこの評価研究事業を助成して下さいました独立行政法人福祉医療機構に対し、厚くお礼申し上げます。

2008年3月

地域包括支援センター評価研究委員会
委員長 山本たつ子